

令和7年度 学校教育自己診断（学校評価アンケート）の結果と考察

1. アンケート回答数（回答率）

令和7年11月27日（木）実施

△	在籍	実施日	生徒		保護者		教職員
			3年生		3年生		
令和7年度	75人 内訳↓ 3年 75	11/27	74人 (100%) 長欠 1		66人 (89.3%)		17/17人 (100%)
令和6年度	140人 内訳↓ 2年 78 3年 62	11/14 11/21	2年生		3年生	2年生	3年生
			140人(100%)		124人(88.6%)		21/22人 (95.5%)
			78 (100%) 長欠 0	62 (100%) 長欠 0	66 (84.6%)	58 (93.5%)	
令和5年度	267人 内訳↓ 1年 89 2年 64 3年 114	11/16	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生
			267人(97.3%)			319人(87%)	
			80 (94%) 長欠 4	64 (100%) 長欠 0	112 (98.2%) 長欠 0	64 (76%)	57 (89%)
令和4年度	368人 内訳↓ 1年 78 2年 118 3年 172	10/18 10/21	356人(97%)			319人(87%)	
			74 (95%) 長欠 4	117 (99%) 長欠 1	165 (96%) 長欠 5	67 (91%)	108 (92%)
			521人(98%)			440人(84%)	
令和3年度	521人 内訳↓ 1年 147 2年 181 3年 193	10/21	139 (95%) 長欠 9	197 (100%) 長欠 0	214 (99%) 長欠 1	116 (83%)	147 (81%)
			521人(98%)			177 (92%)	

2. 考察

集計結果の処理は、肯定的回答（○○）と否定的回答（△×）に分け百分率で表した。

集計表は過去の肯定的回答との比較を百分率（以下『ポイント』と記述）の増減で表した。

なお、マイナスは数値の前に△を付記する。

また、保護者のアンケートでは「わからない」という回答を設け、その数を引いたものを母数とし肯定的回答と否定的回答の百分率を求めた。

年次別（過去3年間のデータと比較）

生徒

「授業はわかりやすい。」の項目において、過去3年間のポイント平均と比較して約8ポイント上昇した。授業改善プロジェクトチームの設置や授業改善研修の実施により、教員が一層授業力の向上を意識していることが考えられる。

「授業でわからないことについて、先生に質問できている。」「少人数によるきめ細やかな指導が行われている。」の項目において、過去3年間のポイント平均と比較して約10ポイント上昇した。一クラスにおける生徒数の少なさや、数学・国語での少人数展開により、質問しやすい環境がつくられている。

「全校朝礼や学年集会は学校生活において自分のためになっている。」の項目において、過去3年間のポイント平均と比較して約10ポイント上昇した。単学年になったことにより、その学年に焦点を合わせて話すことができるため、生徒が自分ごととして捉えることができると考えられる。

保護者

「子どもは、『学校に行くのを楽しい』と言っている。」「子どもは、『授業がわかりやすい』と言っている。」「子ども自身は、『学校で学ぶことは大切だ』と思っている。」の項目において、過去3年間のポイント平均と比較して10ポイント以上上昇した。生徒が学校生活や学習の充実を家庭で共有していると考えられる。また、「学校は、教育方針や教育情報等をわかりやすく伝えている。」の項目についても、過去3年間のポイント平均と比較して10ポイント以上上昇していることから、家庭の中で生徒やホームページ等を通して、学校の教育状況がより伝わるようになっていると考えられる。

「学校行事は、子どもたちに達成感や自主性をもたせるよう工夫されている。」の項目において、過去3年間のポイント平均と比較して10ポイント以上上昇した。生徒数が減る中で、どのように思い出になる行事にしていくかを検討・実行した結果だと考える。また、体育大会や文化祭等、保護者の来場機会を確保することで、生徒の活躍を見られたこともポイントに反映されたと考えられる。

教職員

「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。」「各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。」の項目において、過去3年間のポイント平均と比較して10ポイント程度上昇した。また、「学校運営に教職員の意見が反映されている。」の項目が、過去3年間のポイント平均と比較して10ポイント以上上昇していることから、各教職員が教育活動について考え、学校運営に意見を反映させられる機会を増やすことができている。

「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。」の項目において、過去3年間のポイント平均と比較して10ポイント以上上昇した。教職員研修等を通して研鑽を積むことで、多様な状況の生徒とかわろうとしている。

3年生の年度別変化（各年度との比較）

生徒

数値は僅かであるが多数の項目で低下を示した。「学校は生活指導をきっちり行っている。」と、「学校生活について先生の指導を理解できる」が6.0ポイント低下した。年度別変化では過去上昇傾向が続いてきた項目である。「学校では、将来の進路や職業について適切な指導を受けられる。」についても同様で、進路実現に向けて履歴書指導やさまざまな教員と面接練習を実施してきたが3.5ポイント低下した。日々伝えていることと、生徒の受け取りの理解に差があるように感じた。

一方、「学校の施設、設備についてほぼ満足している。」では22.2ポイント、「学年集会は学校生活において自分のためになっている。」では15.7ポイント上昇した。学校の施設、設備について、少人数で色んな施設を広々利用できているからではないかと考える。学年集会についての理解は、低下した項目と関連して低下しそうであるが、その影響はなく、集会では各分掌からの講話を肯定的に受け取っている生徒が多いことを示した。

保護者

生徒の変化と違い、保護者の変化で低下を示した項目は「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる。」のみで、6.8 ポイント低下した。複数件、学校に対するご意見があつたが、状況を丁寧に聴き取り、適切に対応していた。閉校に向かう中で、今後、相談がしたい保護者が出てきた際に、案件によって適切な窓口に繋ぐ必要がある。

前年度と比較してポイントの上昇が著しかったのは、「学校は、人間関係や人権を尊重する意識を育てようとしている。」で 24.5 ポイント上昇した。生徒はこの項目で低下を示したが、グループワークや講演会、集会等さまざまな場面で人間関係について取り上げてきたことで保護者の理解を得ることができたと考える。

現3年生（48期生）の経年変化（過去2年間のデータと比較）

3年生（生徒）

「授業でわからないことについて、先生に質問できている。」の項目については昨年度から 15.6 ポイントも上昇している。3年生ということもあり、教員との関係が築かれてきたことを反映していると考える。また、「授業がわかりやすい。」という項目や、「先生はプロジェクトや 1 人 1 台端末を活用するなど、教え方を工夫している。」の項目についてのポイントも上昇していることから各授業で様々な工夫がなされていることがうかがえる。

「今のクラスに友だちがいる」の項目については高いポイントを保っており、3年生では一番高いポイントとなった。「学校に行くのは楽しい」の項目も昨年度より 10.1 ポイントも上昇している。3年間で人間関係を築き、友人がいることで学校生活が楽しいと感じている生徒が増えているようだ。

3年生（保護者）

「子どもは、「授業がわかりやすい」と言っている。」の項目は生徒のアンケート結果と比べると大幅に低いものの、2年生の時より 10.2 ポイントの上昇が見られる。また、「学校は教育方針や教育情報等をわかりやすく伝えている。」という項目も昨年度と比較すると 12.9 ポイントも上昇している。授業や学校の方針に関する保護者の理解が生徒を通じ 3 年間で徐々に深まっていると考える。

「学校は人間関係や人権を尊重する意識を育てようとしている。」の項目についても 2 年生の時よりも 13.2 ポイントも上昇しており、最終学年ということもあり人間関係構築の力がついてきたと考えられる。また保護者の目からもそれは感じられるようだ。

最後に

全体として昨年度より概ね数値が上昇した。それぞれの平均値が、生徒は 3.5 ポイントの上昇、保護者は 6.0 ポイントの上昇、教職員は 2.9 ポイントの上昇だった。また、過去 3 年と比較しても、美原高校全体の数値が順調に上昇していることがよく分かる。これは、数年における授業改善・生活指導・進路指導等の校内研修や日々の教職員の研鑽の賜物であると考えられる。

今年度は授業改善プロジェクトチームの設置や授業改善研修をおこない、教員が授業力の向上を意識した結果、「授業がわかりやすい」などの数値が過去 3 年より大きく上昇した。

また、閉校する年で、単学年での活動になっているが、学校行事の充実や保護者対応を丁寧におこなった結果も反映され、昨年度より保護者の数値も上昇した。

今回のアンケート結果をもとに、残り少ない時間ではあるが、生徒や保護者、教職員が安心して学校生活を送れるよう、また魅力的な学校となるように、検討を重ね、今後の教育活動につなげていきたい。